# 2.1「全国国立大学電子図書館電子化資料一覧」について

人文社会科学研究科　助教授　矢澤真人

## 0. 本資料の目的と概要

筑波大学学内プロジェクト「電子図書館の重点機能に関する調査開発研究」の基礎資料とするために、全国国立大学附属図書館のホームページ（サイト）で公開された電子化資料について、内容、所在(URL)、ファイル形式等について、調査を行い、「全国国立大学電子図書館電子化資料一覧」を作成し、

http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/myazawa/dl/index.html

で仮公開している[1]。

同様の情報は、

琉球大学 附属図書館「電子化資料リンク集」

http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/erwg/index.html

東京大学 附属図書館・情報基盤センター「インターネット学術情報インデックス」

http://resource.lib.u-tokyo.ac.jp/iri/url_search.cgi

においても提供されているが、所在と内容の概略を紹介するのみで、「電子図書館」の現状の分析・検討の資料としては十分とは言えない。本調査では、電子化図書館に望まれる情報の種類、それぞれの情報の質に適した形式、検索の利便性等について検討を加えるための資料として、まずは、日本国内の国立大学付属図書館で公開されている電子化資料について、より詳細な情報を集積している。

## 1　電子化資料について

各大学の附属図書館のホームページでは、多種・多様の資料が電子化されている。まず、資料の電子化の目的を大きく、対外的側面（所蔵図書や文書の公開、情報検索等）と内部処理的側面（所蔵図書・文書の保全や効率的な管理等）の 2 つに分けて考える。

資料電子化の対外的側面としては、

A）従来の所蔵図書・文書を電子化して公開する。

B）紀要や報告書等のあたらしい文書を電子化して公開する。

C）組織や地域に関わる最新の情報を提供する。

D）当該図書館の所蔵図書・文書、他図書館の所蔵図書・文書の検索を助ける。

といった目的が想定される。A）の側面は、各大学で進められている E-learning において、スクーリング時以外にも図書館を活用できるようにするために充実が望まれている。また、最新の科学技術をいち早く提供するため、地域との連携を図るために、B）やC）の側面

---

[1]本資料は、筑波大学学内プロジェクト「電子図書館の重点機能に関する調査開発研究」（代表；西原清一）の成果によるものである。本資料の作成に当たっては、筑波大学文芸・言語研究科出身の茂木俊伸（現鳴門教育大学講師）、冨樫純一（現筑波大学助手）、石田尊（現八島学園大学講師）の３氏の協力を得た。

も欠かせない。これらを側面からサポートするのがＤ）である。

これまで、既存図書の電子化は、貴重図書・美術品のマイクロフィルム化の延長として進められたため、多くは、紙面をそのまま映した画像ファイル形式で提供されてきた。始めの数ページ分を提供する、いわば、収蔵する貴重図書・美術品のカタログ的な電子化資料にすぎないものも少なくない。

明治期から昭和２０年代にかけての洋装図書は、比較的新しく、美術的価値も低い実用的な書籍であることから、貴重図書の選定からはずされることも少なくなく、電子化の対象とはなりにくかった。これらは、紙や糊の劣化により、普通に読むだけでも背表紙が砕けたり表紙が割れたりページが取れたりすることも多く、一般の閲覧方式では破損・汚損を防ぐことができない。これらの書籍類の電子化は、収蔵図書の保全の側面からも早急な電子化が望まれるのである。これらの書籍は、画像ファイル形式で提供するよりも、内容の検索が容易なテキストファイルをベースとした形式の方が利用価値が高くなる。

最新情報を提供するＢ）やＣ）のタイプの電子化資料はともかく、Ａ）タイプの電子化資料には、用途にあった形式での提供が欠かせないのであるが、実際には、利用者に使いやすい形で提供されているものは少ない。「カタログ的な電子化資料」では、e-learning の補助の役には立たないだろう。

## 2　電子化資料の分類

### 2－1　収集対象とする電子化資料とその分類

本調査では、Web 上の多様なコンテンツを概ね次のようなタイプに分類した。

**A.コレクション**

貴重書や大型コレクション、学内刊行物の全部もしくは一部を、画像や文書の形で電子化し、公開しているもの（電子化された資料の検索システムを含む）。

**B.展示資料**

大学あるいは附属図書館の企画展示を電子化したもの。ポスターや資料など。

**C.大学･地域資料**

大学や地域に関連する資料を電子化したもの。図書館におかれたもののみを対象とする（実際には、大学に関する情報については、大学ホームページに置かれている場合が多いと思われる）。地域に関連した資料の一部は、上の A,B と重複する。

**D.教育資料**

学位論文の関連資料やシラバスの補足資料など。

**E..図書館資料**

附属図書館の広報資料（館報）、報告書、公開講座資料、業務資料など。

### 2－2　収集の対象としないもの

各図書館のＨＰに掲載されたもののうち、次のような資料は収集の対象外とした。

**利用案内、開館カレンダー、申請書類、新着図書一覧の類**

ただし、資料概要、図書館報等の全文情報、シラバス、コレクション一覧等は収集の対象とした。

**リンク集、検索サービス等**

ただし、画像を含んだ資料の紹介、学術刊行物の目次情報等は収集の対象に含める。

## 2－3　調査項目について

各大学付属図書館の電子化資料について、以下の項目について調査し、一覧できるようにした。

**1　大学名、大学 HP の所在(URL)**

**2　＜図書館名＞または (分館名) 、図書館 HP の所在(URL)**

**3　資料種類 (●)**

２－１に述べた調査資料の種類

**4　資料名 (○) 、ファイル形式、所在(URL)**

個別の電子化資料の名称、および、提供するファイルの形式（PDF 文書、HTML 文書、JPG 形式ファイル等）

**5　特記事項**

当該の電子化資料の概要や補足説明、利用の際の留意点など

**6　アクセシビリティの注記**

外国語コンテンツの有無、携帯用専用ページの有無など

以下に、例として、小樽商科大学 附属図書館の調査報告を示す。

| | 解説 | 調査報告本文 |
|---|---|---|
| 1 | 大学名 | **小樽商科大学　http://www.otaru-uc.ac.jp/htosyo1/** |
| | 大学ＨＰ・ＵＲＬ | |
| 2 | 図書館名 | ＜小樽商科大学 附属図書館＞ |
| | 図書館ＨＰ・ＵＲＬ | http://www.otaru-uc.ac.jp/htosyo1/ |
| 3 | 資料種類 | ●貴重書展示室（試験運用） |

4　資料名　　○小樽商科大学附属図書館漢籍画像データ（PDF）
資料所在ＵＲＬ　　http://bunken.ih.otaru-uc.ac.jp/kanseki/
資料ファイル形式　　※資料15点の解説と画像（3ページ分(jpg)）、全文(PDF)。
5　特記事項　　・経部『論語古注集箋』
・史部『日本国志』『日本源流考』『蒙古游牧記』『日本訪書志』『両漢金石記』
・子部『荀子集解』『近思録』『性理全書』『老子道徳経解』『荘子集釈』
・集部『楚辞集注』『遜志斎集』『楊園先生全集』『詞律』

4　資料名　　○小樽商科大学附属図書館洋書画像データ
資料所在ＵＲＬ　　http://bunken.ih.otaru-uc.ac.jp/yosho/
資料ファイル形式　　※著者名リストとタイトル(邦題)リストから。
5　特記事項　　資料15点の解説と画像（外観と3ページ分(jpg)）、全文(PDF)。
・シャルル・サン＝ピエール『永久平和論』
・ジャン＝ジャック・ビュルラマキ『公法原理』『自然法原理』
・ウィリアム・ゴドウィン『政治的正義』
・メアリ・ウルストンクラフト『女性の権利の擁護』
・ガブリエル・マブリ『マブリ著作全集』
・カンバセレス文庫『人頭税について[手稿]』『会計院の権限[手稿]』
『ユスティニアヌス法典に基づく諸制度[手稿]』『法令集[手稿]』
『ルイ14世の勅令[手稿]』『判例集[手稿]』
クロード・セレ『フランスの法制度』、ルソー・デュ・ラ・コンブ『法令・判例集』
『民法典に関するコンセイユ・デタ議事録』

6　アクセシビリティ　　※アクセス：英語ページ等なし。

## 2－4　大学図書館について

大学所在地から、以下の９地区に分けて、以下の大学図書館の電子化資料を示した。なお、分館や電子図書館部門等が独自にコンテンツを提供する場合は、（含；分館等）で示す。なお、独自の電子化資料を提供しない大学図書館には、下線を施してある（2004 年３月現在）。

### 北海道地区

旭川医科大学附属図書館　　小樽商科大学附属図書館

帯広畜産大学附属図書館　　北見工業大学附属図書館
北海道大学附属図書館　　北海道教育大学附属図書館（含；分館等）
室蘭工業大学附属図書館

**東北地区**

弘前大学附属図書館　　岩手大学附属図書館
東北大学附属図書館　　宮城教育大学附属図書館
秋田大学附属図書館　　山形大学附属図書館
福島大学附属図書館

**関東地区（筑波大学図書館を除く）**

群馬大学附属図書館（含；分館等）宇都宮大学附属図書館
茨城大学附属図書館　　千葉大学附属図書館（含；分館等）
埼玉大学附属図書館　　横浜国立大学附属図書館
お茶の水女子大学附属図書館　　電気通信大学附属図書館
電気通信大学附属図書館　　東京大学附属図書館（含；分館等）
東京医科歯科大学附属図書館　　東京外国語大学附属図書館
東京海洋大学附属図書館　　東京学芸大学附属図書館
東京芸術大学附属図書館　　東京工業大学附属図書館（含；分館等）
東京農工大学附属図書館　　一橋大学附属図書館（含；分館等）
総合研究大学院大学図書館　　政策研究大学院大学附属図書館

**北陸甲信越地区**

上越教育大学附属図書館　　長岡技術科学大学附属図書館
新潟大学附属図書館　　信州大学附属図書館
富山大学附属図書館　　富山医科薬科大学附属図書館
金沢大学附属図書館　　北陸先端科学技術大学院大学附属図書館
福井大学附属図書館　　山梨大学附属図書館

**東海地区**

愛知教育大学附属図書館　　豊橋技術科学大学 附属図書館
名古屋大学附属図書館（含；分館等）
名古屋工業大学 附属図書館　　岐阜大学附属図書館
三重大学附属図書館　　静岡大学附属図書館
浜松医科大学附属図書館

**関西地区**

滋賀大学附属図書館　　滋賀医科大学附属図書館
京都大学附属図書館　　京都教育大学附属図書館
京都工芸繊維大学附属図書館　　大阪大学附属図書館
大阪外国語大学附属図書館　　大阪教育大学附属図書館
神戸大学附属図書館（含；分館等）兵庫教育大学附属図書館
奈良教育大学附属図書館（含；分館等）
奈良女子大学附属図書館　　和歌山大学附属図書館
奈良先端科学技術大学院大学附属図書館

**中国地区**

鳥取大学附属図書館　　島根大学附属図書館
岡山大学附属図書館　　広島大学附属図書館
山口大学附属図書館

**四国地区**

徳島大学附属図書館　　鳴門教育大学附属図書館
香川大学附属図書館（含；分館等）愛媛大学附属図書館
高知大学附属図書館（含；分館等）

**九州･沖縄地区**

九州大学付属図書館　　九州工業大学附属図書館
福岡教育大学附属図書館　　佐賀大学附属図書館
長崎大学附属図書館　　熊本大学附属図書館
大分大学附属図書館　　宮崎大学附属図書館
鹿児島大学附属図書館　　鹿屋体育大学附属図書館
琉球大学附属図書館

## 3　筑波大学図書館の電子化について

### 3－1　筑波大学図書館の特色

筑波大学図書館は、国内でも有数の蔵書数を誇り、大型コレクション・個人文庫等も多い。電子化資料（A）「コレクション」の対象となる資料群は豊富で、独自のコンテンツを提供する能力は大きく、現時点でも、貴重図書を中心に、「所蔵資料（デジタルコンテンツ）」の提供も進み、全文閲覧の可能な資料も多く取りそろえている。また、博士論文や特別プロジェクト報告書等の学内の研究成果の電子資料化も進んでおり、（D）の面でも充実したコンテンツとなっている。筑波大学図書館は、提供資料の質・量、提供方法ともに、現時点では、先行する電子図書館の一つであると見なして良いと思われる。

### 3－2　国語教育分野の電子化資料について

今回の調査においては、資料収集が中心となり、数値的な分析は完了していない。多種・多様なコンテンツに対し、ファイル数で比較するのも、ファイルサイズで比較するのも適当とは思われず、むしろ、実際に資料にアクセスして、どのような利用価値があるのかを考えるべきだと判断したことによる。ただし、電子化資料の利用価値・利便性を判断するのには、専門性が大きく関わってくることが予想される。

そこで、国語教育に関する電子化資料を中心に検索したが、鳴門教育大学のように、文庫目録（野地文庫・大村文庫）を掲載するところはいくつかみられたが、実際の文献本文について、電子化を進めているのは、広島大学の資料以外は見あたらなかった。

広島大学図書館では、数多くの教科書を電子化資料にして提供しているが、教科書の数ページを画像ファイルで提供する「カタログ的な電子化資料」の域を出ていない。教科書

は、同じ書名であっても、版により内容が異なることが少なくなく[2]、教科書の内容調査には、それぞれの教科書のそれぞれの版を比較検討する必要がある。その一方で、教科書という性質上、使用済みのものは処分されることも多く、同じ教科書の異なる版を複数所蔵している図書館は、ほとんど無い。

筑波大学図書館は、東京高等師範学校・東京文理科大学・東京教育大学の旧蔵書を受け継ぎ、福富文庫、日高文庫、岡倉文庫、宮木文庫等、国内でも有数の教育資料を集積している他、これとは別に、師範学校時代に出版社から寄贈された教科書類も少なくなく、明治期の教科書の初版本が閲覧できる数少ない図書館でもある。

筑波大学図書館では、明治期の書籍類は、貴重図書扱いを受けず、洋装本の教科書は１階、和装本の教科書は中２階で、比較的自由に閲覧できるが、洋装本を中心に破損が進んでいるものも少なくない。これらの教科書の保全と利用の便を図るためにも、電子化が進められることが望まれる。教科書は比較的ページ数が多くなく、内容の面でも、図版を除けば、テキストファイルベースで電子化しやすく、さらに、テキストファイルベースの方が比較・検討に供しやすい[3]。（A）タイプのコンテンツについて、従来の「貴重図書」「画像ファイル」中心の電子化の一方で、上のようなテキストファイルベースの電子化も検討されてもよいのではないだろうか。

[2]矢澤真人(2002)「三土忠造『中等国文典』の改訂について」『筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト成果報告書平成 13 年度Ⅴ』参照

[3]画像ファイルの場合、鮮明な撮影のために専門の業者を通すことが必要になるが、テキストファイルベースの電子化では、学生の短期雇用等を利用して、図書館内でコンピュータに打ち込んでもらって素稿を作成することができ、比較的安価であるという利点もある。